

青森県が開発した 「あすなろ卵鶏」について



(地独) 青森県産業技術センター畜産研究所

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center
地方独立行政法人 青森県産業技術センター

1. はじめに

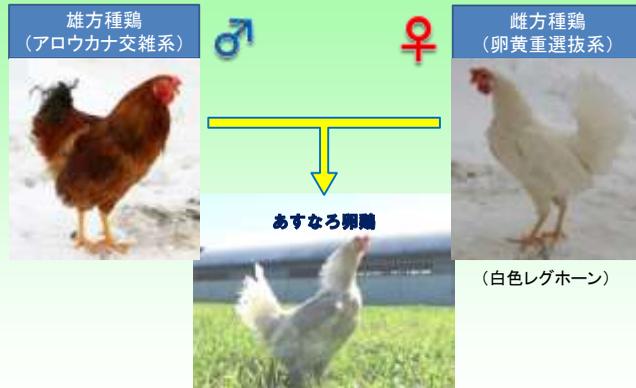
◎「あすなろ卵鶏」とは・・・

旧青森県畜産試験場養鶏部が開発し、平成4年から一般配布開始。
鶏卵は、青森県をイメージする“青緑色”の卵殻が最大の特徴。
県の木「あすなろ」にちなみ、この鶏卵に「あすなろ卵」と命名。
「あすなろ卵」を生産する鶏を「あすなろ卵鶏」と呼ぶ。



Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center
地方独立行政法人 青森県産業技術センター

2. あすなろ卵鶏の交配様式



Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center
地方独立行政法人 青森県産業技術センター

3-1. 「あすなろ卵鶏」の種鶏について

雄方種鶏：アロウカナ交雑系「あすなろII」

素材鶏は1993年に千葉県養鶏試験場から種卵導入した青色卵殻の鶏卵生産鶏。その後、白色レグホン種やロードアイランドレッド種を交配して選抜した鶏種。

- ・現あすなろ卵鶏の雄方種鶏。
- ・南米チリ原産のアローカナ種の青色卵殻色遺伝子を持つ採卵鶏。
- ・アローカナ種とロードアイランドレッド種を交配し、採卵能力や卵殻色で育種改良を行った。
- ・現あすなろ卵鶏の雄方種鶏として利用。



Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center
地方独立行政法人 青森県産業技術センター

3-2. 「あすなる卵鶏」の種鶏について

雌方種鶏：卵黄重選抜系(白色レグホン)
 白色レグホン種で、卵黄卵重比や卵黄重を高める選抜を行った種鶏。



- ・旧青森県養鶏試験場(五戸町)で保有していた白色レグホン種において、卵黄卵重比(卵黄重÷卵重)や卵黄重を指標に選抜を行った系統。
- ・現あすなる卵鶏の雌方種鶏として利用。

4. 「あすなる卵鶏」の改良の歴史

【あすなる卵鶏交配様式の変遷】

開発年次	1995	2005	2009
交配様式(雄×雌)	あすなるⅠ鶏×あすなるⅡ鶏	あすなるⅡ鶏×卵黄卵白重比選抜鶏	あすなるⅡ鶏×卵黄重選抜鶏
特徴	青緑色卵殻	青緑色卵殻で卵黄割合が高い	青緑色卵殻で卵黄の割合が高く、卵黄が大きい



●青色卵殻色遺伝子を有し、卵黄が大きく、且つ卵黄割合の高い鶏卵を生産する能力を持つ一代雑種として改良。

5. 「あすなる卵鶏」の特徴



- 羽色：くすんだ白色羽
- 鶏冠(とさか)：まめ冠
- 卵殻色：青緑色

形質	あすなる卵鶏
育成率(1~20週齢)	99.5%
生存率(21~64週齢)	93.5%
ヘンデイ産卵率(21~64週齢)	80.3%
飼料摂取量(21~64週齢)	119.3g/日/羽
日産卵重(21~64週齢)	52.6g/羽
平均卵重(21~64週齢)	65.5g
飼料要求率(21~64週齢)	2.27

6. 「あすなる卵」の特徴

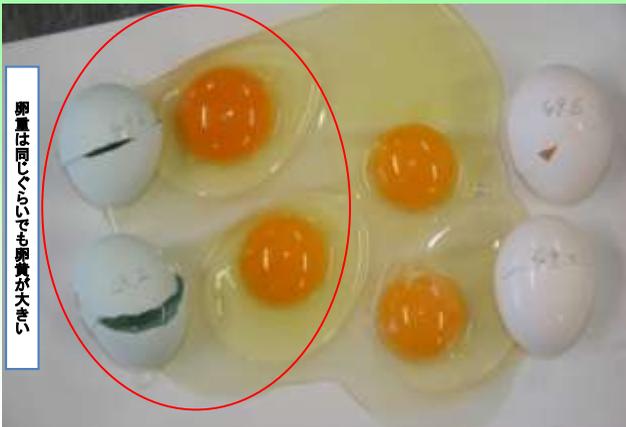


形質	あすなる卵	市販鶏卵注)
卵重	65.9g(43週齢)	64.6g(48週齢)
卵黄重	19.9g(43週齢)	17.5g(48週齢)
卵黄割合	30.4%(43週齢)	27.1%(48週齢)

●卵重65.9g、卵黄重19.9g、卵黄割合30.4%であり、市販鶏卵(27%前後)に比べて卵黄が重く、卵黄割合が高い。

卵かけご飯に最適

注)山上善久(2004)、日本家禽学会誌41巻、J2号、J104-J110



卵黄は同じくらいでも卵黄が太くなら

7. ヒナの配布状況



- あすなろ卵鶏のヒナは当研究所のみで生産している。
- 払下げ羽数は、県内を基本に、年間約3,000羽程度。
- 主な県外出荷先は、北海道、岩手、宮城等。

※平成20年度から県外生産者に対するヒナの宅配便輸送ができなくなり減少傾向となったが、H23年度以降は徐々に微増傾向で推移している。

8-1. 「あすなろ卵」の生産販売事例

(有)身土不二(東北牧場)

- ・東北町にある競走馬の牧場であるが、有機野菜と卵の通信販売を実施。
- ・有機飼料JAS(日本農林規格)の認定を受けた自家産のとうもろこしを主体とし、ほたて貝殻や魚粉、麦やくず米など100%国産飼料を給与して生産した卵を、主にインターネットや首都圏百貨店などで販売している。



〒039-2403
青森県上北郡東北町新館有野部1-3
TEL: 0176-62-9200 / FAX: 0176-62-2202
<https://www.tohoku-bokujou.co.jp/shop/commodity/egg/>

8-2. 「あすなろ卵」の生産販売事例

田子たまご村(日沢一雄氏)

- ・田子町にあり、非遺伝子組み換えとうもろこしやエゴマ、ヨモギ、ニンニクなどを給与して生産した「あすなろ卵」を「緑の一番星」という名前で直売所やインターネットを通じて販売している。特にエゴマは、県南地方で「じゅね」と呼ばれ、種子はα-リノレン酸を多く含んでいることで知られている。



〒039-0317
青森県三戸郡田子町大字山口
字高ヶ沢20-30
TEL: 0179-23-0139 / FAX: 0179-23-6540
<http://www.tamagomura.com/>

9. まとめ

鶏卵市場は競争が激しく、規模が小さい生産者ほど、差別化や高付加価値化などの取組が重要と思われる。

このため、青森県では見た目では他の鶏卵と区別ができ、中身的にも特徴のある鶏卵を生産する鶏の開発に取り組んだ。

「あすなろ卵鶏」は地鶏ではないものの、色のバラつきが少ない美しい青緑色の卵殻色で、卵黄が大きく、且つ高い卵黄割合となるように改良を重ねてきた。現在は、卵かけごはんに最適な卵として普及を図っている。

さらに、当研究所では卵黄中の成分や美味しさの向上等を目指し、未(低)利用資源の飼料利用や県(国)産飼料の給与試験を実施している。

